



## 利水、治水両面で疑問視

反対地権者と支援者は、

付けていない。

長崎県と佐世保市が説明するダムの建設目的を疑問視してきた。人口減が進む佐

世保市の水需要予測は妥当なのか、川棚川の洪水対策

は減少傾向を示しているが、推計値では2013年以降、V字回復するとい

ているのではないかと訴えるが、ダムの必要性の再検証については国も県も受け

付けていない。

こうした「特殊要因」を除けば過去の増加率に応じた回復を示す」というのが市の理屈だ。

佐世保市が公表した水需要予測データによると、1

日平均給水量などの実績値は減少傾向を示している

反対派側には、ダム建設のための数合わせと映る。

専門家の力を借りて独自に推計値を算出し「給水人口

の減少は続き、生活用水の減少は目に見えている。節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

# 反対派「ダムありき」

水型の機器が普及し、事業所や工場用水も同様で、水需要増加の見込みはない」と訴える。

治水面に関しては、地権者側が過去に川棚川沿いで起きた実際の洪水被害について県に問いただし「計画



豊かな自然が広がる川棚町の石木ダム建設予定地

されている河川改修が完了すれば過去と同程度の降雨なら被害は防げる」との回答を引き出している。そのうえで県は「100年に一度の大雨に備えてダムが必要」と強調。地権者側は「すべての洪水がダムで防げるわけではない。むしろ避難計画などを充実させる方が重要だ」としている。